旭川医科大学研究フォーラム 12　：139 ～ 141，2011

学生のページ

旭川を基盤とした「はしっくす」学生による地域連携の取り組み

佐　藤　裕　基* 立　岡　美　穂* 庄　司　一　輝** 内　田　千　晶***

1．はじめに

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム学生自主組織「はしっくす」（以下『はしっくす』）は、今年で発足３年目を迎える。旭川医科大学、旭川大学・同短期大学部、北海道教育大学旭川校、東海大学旭川キャンパス、旭川工業高等専門学校の６校（以下、連携校とする）の学生が連携しながら活動していることが特徴の一つであるが、特に昨年度（平成 22 年度）からは、連携の対象をさらに拡大し、地域と学生、そして行政組織との連携に力を入れてきた。

昨年、我々は旭川医科大学研究フォーラム上で、平成 22 年度までに行われた企画を紹介しながら、その効果と可能性について探った。本稿では､学生と地域、および行政組織との連携に関して、昨年度より継続して行われた企画をいくつか紹介したい。

2．各企画について

平成 22 年度より継続して行われた企画について、具体的な例を挙げながら、「はしっくす」の活動への学生の取り組みと地域の機関との連携についてまとめたい。

2-1.　東神楽町でのゴミ拾い

「はしっくす」では平成 22 年度から５月中～下旬に、東神楽町ひじり野地区、ポン川河川敷でのゴミ拾い活動を行っている。平成 22 年度は全道連携の取り組みの一環として、札幌、江別との共同開催であったが、本年度（平成 23 年度）は、「はしっくす」独自の開催とした。本年度もポン川でのゴミ拾いを行なったが、特に平成 22 年度の結果から、煙草の吸殻やペットボトルなどが多く捨てられていること、また数は多くないものの大型の廃棄物（自転車やタイヤなど）が投棄されていることが判明していたので、本年度の開催にあたっては５名程度を１チームとするチーム制でのゴミ拾いを行なった。さらにその後､ポン川付近（ひじり野地区）の公民館を借り、休日で集まっている小学生を交えたワークショップを開催した。ゴミ拾いの重要性や、環境保護、そしてリサイクルの必要性を紙芝居形式で提示し、その後に拾ったペットボトルで鉢植えを作るワークショップを行った。平成 22 年度は、ゴミを「拾う」ということに焦点を当てていたが、本年度はその拾ったゴミをどのように再生するか、という部分に着目した。ワークショップの最後に配布した参加者アンケートからは、今日のゴミ拾いが「とても楽しかった」とする回答が 79% を占め、また「今日の一連のゴミ拾い／ワークショップの中で一番面白かったところを選択ください。」という問いに対して

図１　平成 23 年度ゴミ拾いの様子

*旭川医科大学医学部医学科　**北海道教育大学旭川校教員養成課程英語教育専攻
***旭川大学保健福祉学部コミュニティ福祉学科

図 2　午後のワークショップの様子

図 3　あさひかわミュージックフェスタの様子（2 日目）

「ワークショップ」とする回答が全体の 69% を占めるなど、我々が目標とした効果は概ね得られたものと考えられる。

2-2. あさひかわミュージックフェスタ

あさひかわミュージックフェスタは、毎年 6 月下旬に行われる「買物公園まつり大道芸フェスティバル」(2 日間開催）に合わせ、旭川市平和通買物公園の 4 条のブロックを借りて、旭川市内の高等教育機関に属する音楽系団体・サークルに発表の場を提供するものである。これは、旭川市民が、学生の音楽活動を感じ取る機会が少ないという面、そして学生自身も音楽を地域貢献に資するリソースとして有効に活用できる手段・場所が少ない面の双方を解決しようとした試みである。当初は吹奏楽や合唱などを想定していたが、それ以外にもジャズやよさこいソーランなどのエントリーもあり、幅の広い活動発表の場となっている。本年度は、1 日目を軽音楽系団体の発表の場とし、2 日目をダンス、ヨサコイ、吹奏楽の発表の場とした。本年度から、吹奏楽団体として旭川医科大学と北海道教育大学旭川校の学生の合同ブラスアンサンブルがエントリーするなど、「はしっくす」を通じた学生団体同士の連携の広がりを実感させるものであった。来場者のアンケートでは、幅広い年齢層が聴衆となり、また、「来年も聞きたい、来たい」と思ったという回答が 90% に上った。

2-3.　JR 旭川駅開業に係わるイベント

「はしっくす」では平成 22 年に開業した、新しい JR 旭川駅の一次開業に伴い、市民 1233 枚の写真を撮影し、それを用いて旧駅舎、新駅舎と、旭川のシンボルとして広く市民に親しまれている旭橋のモザイクアートを作成した。これは新駅舎の開業（平成 22 年 10 月 10 日）に伴い、旧駅舎への感謝の気持ちを伝えようと、「ありがとう　希望をつなぐ　みんなの『笑顔』」と題して写真の収集を学生自らの手で行なった。開業当日は、「はしっくす」代表と、JR 旭川駅長の手で除幕式が行われた。モザイクアートは、旭川駅の新駅舎、南コンコースの仮壁に 4.5 × 15 (m) のパネルとして展示され、現在も多くの市民の目に触れている。

平成 23 年度に、旭川駅はグランドオープンを迎える予定で、この際にも同じようにモザイクアートを作成する予定であり、現在作業が進められている。

2-4.　平和通買物公園におけるスノーキャンドルの作成企画

我々「はしっくす」は主に、旭川市平和通買物公園を活動の拠点としているが、特に冬期の人出が少ないことを感じていた。そこで平成 22 年度、「あったかいね　あさひかわ　～つなげよう灯のわ～」と題して、冬期の平和通買物公園において、スノーキャンドルの作成体験を行う企画を企画した。この企画は、旭川市「市民の企画提案による協働のまちづくり事業」に採択され、平成 22 年 12 月 24 日、25 日の 2 日間にわたって開催された。当日は、旭川の酒造メーカーである「男山」による甘酒の提供なども行われた。当初、本企画は、主に旭川市民を対象として企画していた。しかし当該期間は本州からの観光客も多く、スノーキャンド

図 4　除幕式の様子

図 5　スノーキャンドルを用いたオブジェ
（旭川市平和通買物公園）

ルの作成は貴重な体験となったとの声が寄せられた。本年度も、同事業に採択されたので、今回は観光客も対象に入れ平和通買物公園でスノーキャンドルの作成体験を行う予定である。本年度は更に事業を拡大し、旭川に存する酒造メーカー数社の甘酒の飲み比べや、日本、旭川の文化を伝えるパネル展示なども行う予定である。

2-5.　その他の連携について

「はしっくす」では、その他に旭川市の各種委員会・会議に委員として参加している。平成 22 年度は旭川市総合計画推進委員会に参画したほか、平成 23 年度からは旭川地域自治検討会議、環境美化検討会議、北彩都地区シンボル施設検討懇談会に参画している。これらの委員会・会議を通し、旭川市全体のグランドデザインに対する見識を深めることで、我々「はしっくす」の具体的な企画の一つひとつが、旭川市全体の中で、どのような位置付けとして行われるかを考えている。また、すでに行なった企画によって、我々が感じた旭川市の特徴、問題点・課題を積極的に各会議で発表、提言している。

3. これからの課題と展望

これまで「はしっくす」の活動と、それに伴う地域連携の取り組みについて、いくつかの実例を紹介しながら、その可能性、効果について検討してきた。旭川市では、これまで学生の手による企画は、単発で行われるか、小規模なものが多く、それらは必ずしも効果的なものとは言い難い面もあった。我々「はしっくす」は、他の学生団体や市民団体、行政機関と連携することにより、より効率的で効果のあるまちづくり事業を展開できると考えた。その結果、当初想定していた以上の新しい企画が生まれたと考えているが、問題はこれらの企画が継続的に旭川市に positive な効果を与えられるかという点にある。適切な評価を行いつつ、これまで培ってきた各団体との連携事業が、今後も継続的かつ広がりを持った形で展開できることを期待したい。